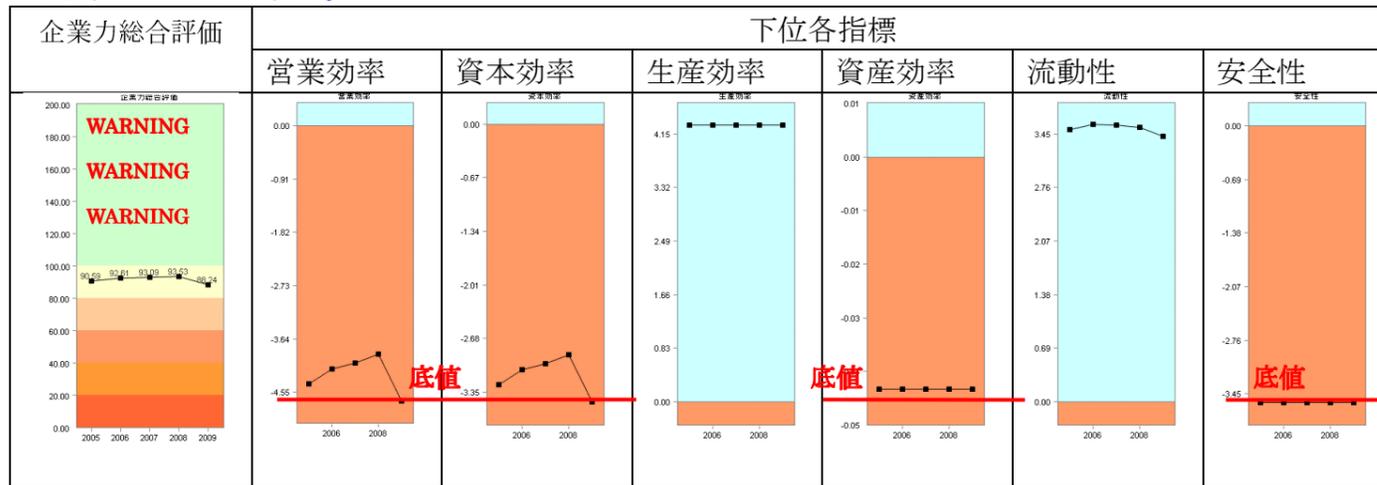
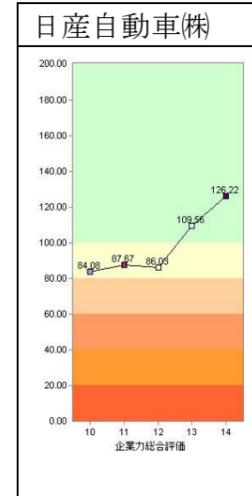


今回は、日本国を分析してみましょう。国は、決算書を作成し、開示しています。作成に時間がかかるらしく、まだ 2009 年 3 月の決算書しか開示されていません。「日本がギリシアみたいになってはいけません。」などと言われています。企業分析の手法で分析したらどうなるのでしょうか。



総合評価は 80~100 点の黄信号領域に 5 年間きれいにハマっています。カルロス・ゴーン氏の就任前の日産自動車(株)の状況に似ています。このゾーンにはまるのは、経営者が変わるか、コンサルティングが必要、つまり経営を変えなければ良くならない状況です。日産自動車(株)は経営者が変わって V 字回復しました。そういえば、日本は総理大臣(社長)が次々変わって V 字回復を目指しています。2009 年 3 月現在、日本を託せる総理大臣が就任されていないようです。WARNING (警告) が 3 つ出ています。総合評価は 88 点でも、実際は破綻懸念状況 (60 点以下) のときに出てきます。

営業効率は赤信号領域の底値に近い状況です。民主党のバラマキ政策で 2010 年 3 月期、2011 年 3 月期は底値に貼りつくでしょう。国の場合、売上ではなく税収です。税収以上に激しくお金を使っていることが分ります。営業効率を決める実際の数字を表にしてみました。



単位: 百万円

	2005年3月	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月
税収	102,264,668	106,196,897	107,411,674	106,460,172	98,205,708
給与	4,557,421	4,553,087	4,514,287	4,520,836	4,514,258
減価償却費	4,443,597	4,630,693	4,688,761	4,706,524	4,708,911
その他経費	104,664,100	104,662,135	104,120,336	99,771,554	104,971,983
経費合計	113,665,118	113,845,915	113,323,384	108,998,914	114,195,152
税収-経費合計	-11,400,450	-7,649,018	-5,911,710	-2,538,742	-15,989,444
支払利息	9,662,606	8,730,413	8,838,637	9,364,817	9,819,070
税収-経費合計-支払利息	-21,063,056	-16,379,431	-14,750,347	-11,903,559	-25,808,514

数字が大きすぎて読み辛いですが、2009 年 3 月の税収は 98 兆 2057 億円です。国債金利の支払いは 9 兆 8190 億円で、ほぼ 10%です。家庭でいえば 35 万円の収入の家族で 3 万 5000 円金利を払っているわけです。それとは別に元本の返済をするわけですからその厳しさは尋常ではありません。資本効率は営業効率と同様になっています。生産効率は天井値です。主な指標は、公務員 1 人あたり税収です。「従業員 1 人当たりの売上」なら意味のある指標ですが、「公務員 1 人あたりの税収」はしっくりきません。資産効率は底値、流動性は天井値です。安全性は赤信号領域の底値です。企業でいえば、債務超過、この状況ではほとんど復活できません。安全性を決める実際の数字を表にしてみました。

単位: 百万円・%

	2005年3月	2006年3月	2007年3月	2008年3月	2009年3月
資本合計	-276,558,693	-290,458,391	-277,341,553	-282,745,075	-317,437,062
固定資産合計	220,359,766	224,226,602	244,049,270	238,487,631	237,487,111
固定比率	*****	*****	*****	*****	*****
固定負債合計	902,809,141	913,403,776	907,397,231	893,833,338	882,538,618
固定長期適合比率	*****	*****	*****	*****	*****
資産合計	700,268,670	690,500,799	703,897,700	695,032,647	664,762,901
自己資本比率	-39.49	-42.06	-39.40	-40.68	-47.75
負債合計	976,827,364	980,959,190	981,239,247	977,777,722	982,199,964

2009 年の数字でみてみましょう。資産 664 兆 7629 億円に対し、負債が 982 兆 1999 億円です。個人の経済に直せば、2500 万円の住宅と 500 万円の預金、合計 3000 万円の資産を持つ家庭が 4432 万円の住宅ローンを背負っている状況です。営業効率の指標と安全性指標を合わせてみれば、税収は 98 兆 2057 億円に対し、負債が 982 兆 1999 億円とほぼ 10 倍です。個人にすれば、443 万円の年収の人が 4432 万円の住宅ローンを抱え金利だけで年間 44 万円支払っているのと同じです。

過去倒産した企業の安全性を見てみましょう。どの会社も安全性は底値になると倒産します。すぐに倒産しない会社は銀行からの救済が得られたなどのケースです。

誰もが日本国が破たんするとは思いきいにくいです。だから国債の引き受け手がなくなるのではないでしょうか。

まとめ 少し無理があり

ますが、日本国を分析してみました。営業効率、資本効率、資産効率、安全性が底値なのに、生産効率、流動性が天井値などという結果は、企業分析をしていてお目にかかることはありません。日本国は危機的状況にあることは間違いありません。

編集後記 連日の暑さに負けないよう、思い切って日本国の分析にチャレンジしました。ガンバレ日本!! 文責MS
〒556-0005 大阪市浪速区日本橋 4-9-21 SARUKI ビル 4F 猿木真紀子税理士事務所
tel 06-6631-4570 fax 06-6631-7970 info@saruki-tax.ne.jp http://www.saruki-tax.jp